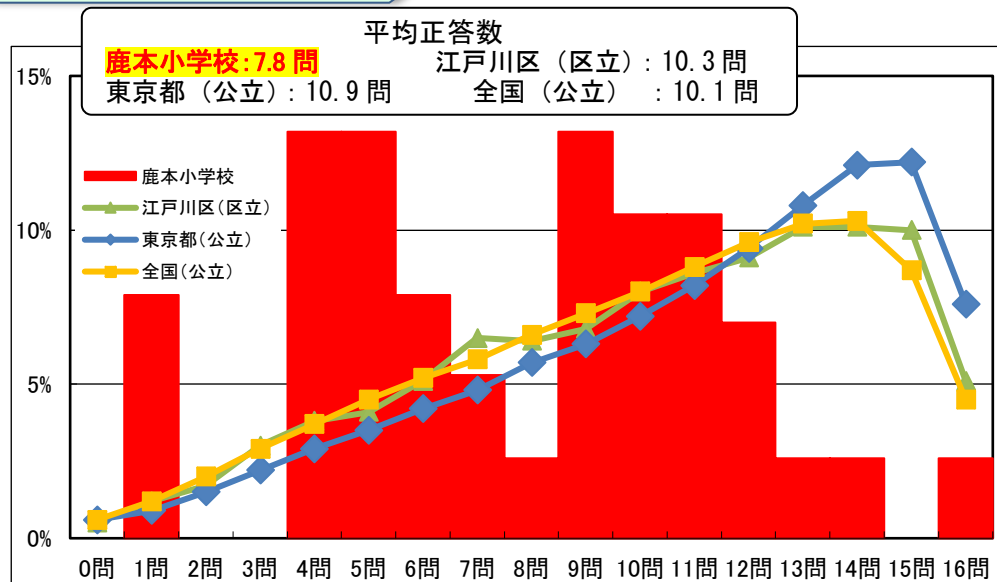


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 鹿本小学校

正 答 数 分 布



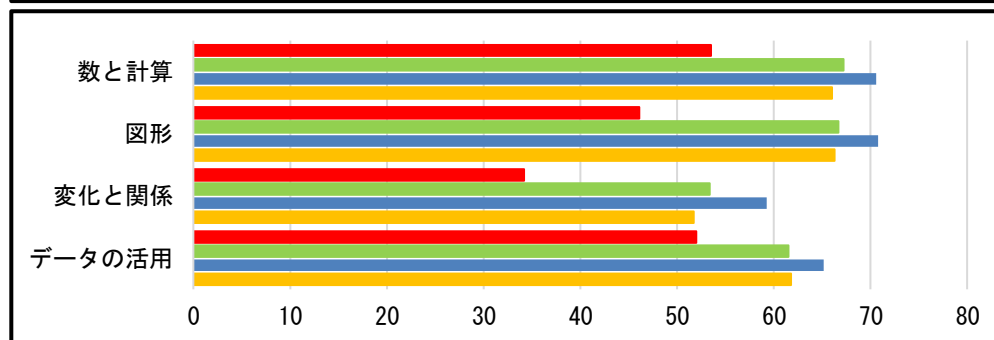
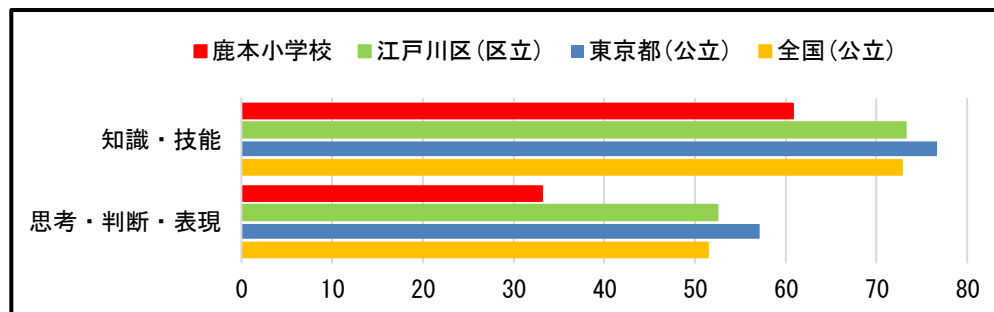
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算 数	上位 ←		→ 下位	
	A 層 14~16 問	B 層 12~13 問	C 層 8~11 問	D 層 0~7 問
鹿本小学校	5.3	10.5	36.8	47.4
江戸川区 (区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都 (公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国 (公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

- ・平均正答率は区、都、全国どれと比較しても大きく下回り、都との差は19ポイントと昨年度(14ポイント)よりさらに広がる結果となった。
- ・四分位における割合はD層が5割と最も多く、C層と合わせると全体の8割以上となる。全体的な学力の低さが見て取れる。
- ・児童一人一人の苦手な領域を把握し、「マスターバンビ」や「朝学習」で学習内容を絞って取り組ませることで、基礎基本の定着を目指す。
- ・児童が興味・関心をもって主体的に授業に取り組めるように算数的活動を工夫する。また毎時間の適用問題で理解度を確認し、学習内容の定着を図る。
- ・領域別の結果から、「思考・判断・表現」の結果が低いことが分かる。問題解決をする時に、自分の考えを言葉や式、図などを使って表現する時間や、考えを交流する時間を十分に取り入れ、自分の考えを分かりやすく表現する力を高めたり、友達と伝え合うことで考えを広げたり深めたりすることができるような授業を行う。

【平均正答率の差】

鹿本小学校	49%
江戸川区 (区立)	64%
東京都 (公立)	68%
全国 (公立)	63.4%
都との差	19ポイント